



日本慢性期医療協会 東日本大震災 災害対策本部

[本部長] 武久洋三 [副本部長] 富家隆樹 [事務局長] 池端幸彦

東日本大震災でお亡くなりになりました皆様のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

東北地方の慢性期医療の復興に向け、当日本慢性期医療協会では地震発生当日の3月11日に災害対策本部を立ち上げ、下記の取り組みをしてまいりました。引き続き各位のご協力を得ながら、会員一丸となり、復興までの道のりを支援してまいります。

支援の取り組み

1. 支援物資の輸送
2. 医療スタッフの派遣
3. 重度慢性期医療を要する患者の受け入れ
4. 被災地からの患者受け入れ
5. 義援金の募集

1. 支援物資の輸送

各位からのご協力により、約40トン(4,000箱)の支援物資を被災地の会員施設にお届けしました。

【第1便】 3月16日(水) 10トン積みトラック1台

福島県 いわき市 4病院、茨城県 常陸大宮市 1病院

【第2便】 3月24日(木) 10トン積みトラック1台

宮城県 石巻市2病院、仙台市2病院、角田市1病院、名取市1病院、松島町1病院、若柳町1病院

福島県 福島市1病院

【第3便】 3月26日(土) 10トン積みトラック1台

宮城県 仙台市2病院、角田市1病院、名取市1病院、松島町1病院

福島県 福島市1病院

3月下旬からは
宅配便を利用し、
東北各地の会員
病院へ支援物資
を輸送致しました。



2. 医療スタッフの派遣

全国の会員施設から、医師、看護師等約250名を被災地に派遣できる体制を整えております。 3月16日～17日:看護師4名を派遣 3月24日～26日:看護師3名を派遣

派遣スタッフの声

物資の搬入を待っていた若い医療福祉スタッフたちが、自分達の出来る事を必死に守り復興を切に願って働く姿に感動しました。10トントラックの物資もあつと言う間に搬入を終了しました。復興には時間がかかりますが頑張ってください、とお話ししたところ、頑張ります、と力強く答えてくれました。夜の暗い状況ではありましたが想像を絶する光景を目の当たりにし、自分だったらこの状況をどう打破して行くだらうか・・・と考えさせられました。

被災地では医薬品をはじめ様々な物が不足していることを実感しました。また、被災地にいるスタッフの方々は疲労、不安もある中で患者様のためにがんばってケアをしている姿が強く印象に残っています。



3. 重度慢性期医療を要する患者の受入れ

人工呼吸器管理、気管切開、胃ろう、重度認知症、人工透析などの重度慢性期医療あるいは要介護度の高い患者を、全国227施設において約1,500名を受入れる体制を整え、随時対応しております。

平成 23 年 3 月 29 日

被災地における急性期医療に従事する病院の皆様へ
(医療連携ご担当者様)

日本慢性期医療協会災害対策本部
本部長 武久洋三
副本部長 富家隆樹
事務局長 池端幸彦

重度慢性期患者ならびに要介護度の高い患者の受け入れに関する支援について

東北地方太平洋沖地震で被災されました皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

貴院におきましては、今回の大震災により、救急医療はもとより、あらゆる状態の患者に総力を挙げてご対応されていることと存じます。そのご苦労は大変なものであるとお察ししております。

当日本慢性期医療協会も岩手県、宮城県、福島県に22の会員病院があり、10トン積みトラックで3回にわたり支援物資を輸送致しました。しかし、被災の程度は重大で、東北地方の慢性期医療を担う被災病院は十分な医療を提供できない状態にもあります。

当協会も厚生労働省からも被災患者の受け入れについての要請を受けているところでございます。一方、被災地方の急性期病院の皆様におかれましては、患者の急増や資材・人材の不足等、大変な状況にあるのではないかと仄聞しております。貴院にて一旦治療を終えたものの、その後のリハビリや回復期・慢性期の医療の必要な患者の今後の転院先について苦慮されていることと存じます。

日本慢性期医療協会では、関東地区の当会会員施設において受け入れの調整をさせていただいております。重度慢性期医療を必要とする患者(人工呼吸器管理・気管切開・胃瘻・重度認知症・人工透析等)、または要介護度の高い患者を、慢性期医療病院・施設でお受けいたしております。それにより、貴院のベッドを高度急性期医療を必要とする患者のために空けていただければ幸いです。このような時こそ、まさに医療界の連携が必要です。これからの医療の復興とよりよい医療の実現のために、医療人として共に地域を支えてまいりたいと思っております。

当会会員施設での受け入れ人数の状況は、下記のホームページにも掲載しておりますので、ご参照ください。ご要望やご質問は当日本慢性期医療協会の事務局にて伺っておりますので、ご遠慮なくご相談いただければ、貴院担当者と調整のうえコーディネーターの役割を果たさせていただきます。

日本慢性期医療協会災害対策本部 <http://jamcf.jp/seigai taisakuhunbu.html>

日本慢性期医療協会 災害対策本部
Tel. 03-3355-3120、(携) 090-3240-3120 E-mail: info@jamcf.jp
* 移送の方法等についてもご相談させていただきます。

(送信枚数計2枚)

連携情報シート
⇒ 日本慢性期医療協会 FAX 03-3355-3122

貴院名					
ご住所	(〒 -)				
TEL		FAX			
連絡担当者お名前			部署名		

患者情報 (わかる範囲でお書き下さい)

性別	男・女	年齢	歳	医療区分	要介護度
(状態) 人工呼吸器 ・ 気管切開 ・ 胃ろう ・ 重度認知症 ・ 人工透析					

性別	男・女	年齢	歳	医療区分	要介護度
(状態) 人工呼吸器 ・ 気管切開 ・ 胃ろう ・ 重度認知症 ・ 人工透析					

4

被災地の急性期病院からの患者受け入れ・転院事例

【事例1】 福島県 千葉県

患者情報	性別:女 年齢:88歳 要介護度5
患者の状態	・サクシオン 1.5h~2h/回 ・腸ろう メイバランス400ml×3回 ・MRSA(保菌) 鼻腔2+、痰少量 ・寝たきり ・Foカテーテル+オムツ
相談内容	南相馬市の特養より避難中に容体悪化し入院。肺炎は落ち着いたものの、もともと入所していた施設には戻れず、家族の避難先である千葉県我孫子市近くの施設入所もしくは転院を希望。

【事例2】 宮城県 埼玉県

患者情報	性別:女 年齢:76歳
患者の状態	・人工透析 ・糖尿病性腎症からの慢性腎不全で2002.11.13に透析導入 ・両下肢ASO。腰椎圧迫骨折などのためADL寝たきり状態 ・2008年に両踵部潰瘍及び左踵部骨髄炎の既往があるも完治。現在は潰瘍はないが、容易に再発しやすいと考えられる。 ・糖尿病はインスリン注でコントロール。HD時の低血圧のため適正体重(Dry weight)はやや高目に設定され、下腿は軽度浮腫状。 ・2010.3月に膀胱癌を疑われるも精査なし ・2011.3.11東日本大震災で被災し、通院困難となり、元の石巻日赤より依頼され、3.18~当院入院中。泌尿器科で膀胱癌のチェックを行っている。

【事例3】 宮城県 埼玉県

患者情報	性別:女 年齢:89歳
患者の状態	・慢性腎不全(保存期) ・慢性心不全 ・高血圧 ・糖尿病 ・認知症
相談内容	家族は透析を希望しておらず、厳格な食事療法と内服が必要。患者は一人暮らしのため、周囲のfollowが必要不可欠。家族は所沢に在住。すでに別の親族の介護を受け入れているため、更にもう一人というのは難しい。今回の震災のため、仙台市内での受け入れが難しくなっており、状態は落ち着いているにもかかわらず、急性期病院に長期入院となっている。 ご家族が、埼玉県在住。近隣希望。

【事例4】 福島県 神奈川県

患者情報	性別:男 年齢:66歳
患者の状態	・経鼻栄養 ・重度認知症(ピンスワングー症) ・老健入所中に被災、避難所より肺炎にて救急搬送。 ・老健入所中は車イスで過ごすこともあったようだが、現在は寝たきり、全介助。 ・現在は、経鼻栄養、吸引、酸素(マスク4)、褥瘡(ゲーベンクリーム塗布)の処置を行っている。 ・既往歴 平成19年 認知症 親族が横浜市在住。近隣の病院または施設での療養を希望。

【事例5】 宮城県 東京都

患者情報	性別:女 年齢:23歳
患者の状態	平成23年、ランニング中に倒れているところを発見され、心停止状態で救急搬送。重度の低酸素脳症(植物状態)。 四肢麻痺、経鼻胃管栄養で気切なし。自然開眼あり。発語はあるが、意思疎通は不可能。 現在は点滴も必要なく、経鼻胃管からの経腸栄養のみで管理が可能な状態。 両親が東京都東村山市在住のため、震災前より東京都内での療養を希望。

4. 被災地からの患者受け入れ

全国各地の会員施設が被災地からの患者を受け入れています。

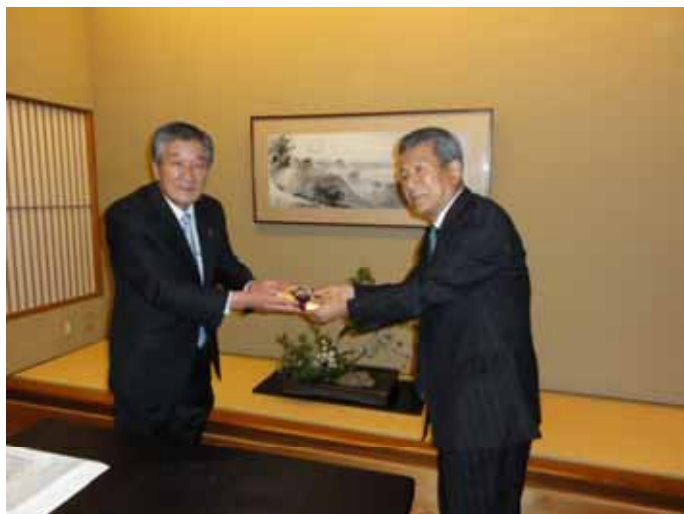
	施設数	入院・入所	外来
東北地方	18施設	320人	0人
関東地方	39施設	381人	29人
中部地方	5施設	6人	1人
近畿地方	8施設	9人	30人
中国地方	2施設	1人	1人
九州・沖縄地方	5施設	5人	4人
合計	77施設	722人	65人

平成23年5月13日現在

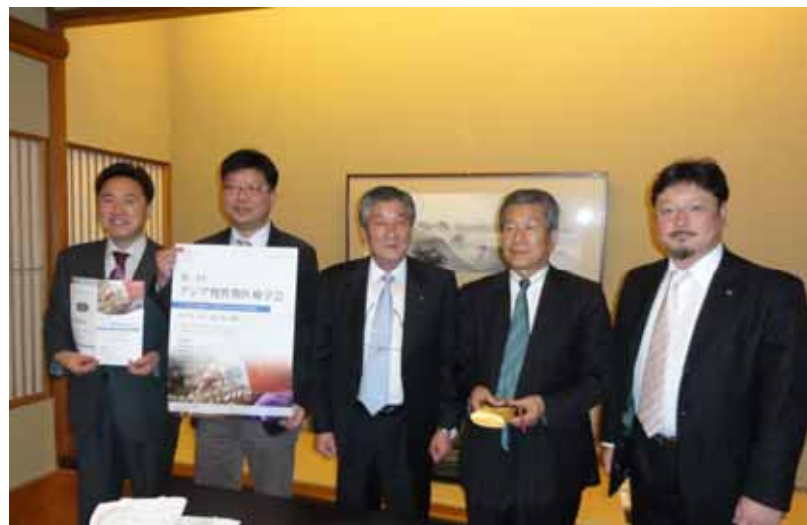
5. 義援金の募集

3月31日に大韓老人療養病院協会 会長 金徳鎮先生が義援金をお持ちになり来日されました。共に手を取り合い、アジアの慢性期医療の発展にこれからも誠意をもって取り組んでまいります。

東日本大震災により甚大な被害を受けられた、岩手県、宮城県、福島県の会員22施設に、被害の状況に応じて計2,415万円のお見舞金をお渡しいたしました。



左 大韓老人療養病院協会会長 キム・ドクジン先生
右 日本慢性期医療協会会長 武久洋三



左より、大韓老人療養病院協会総務理事ソン・ドクヒョン先生、
同国際理事ソン・ソンゴン先生、同会長キム・ドクジン先生、
当協会会長武久洋三、同国際委員会委員長中村哲也

韓国	大韓老人療養病院協会	2,346,000円	
日本	延べ154件	31,986,925円	
	計	34,332,925円	(5月31日現在)

義援金のお振込先
郵便振替口座 00140-7-401993
名義 一般社団法人 日本慢性期医療協会

～被災地の会員施設からの声(一部抜粋)～

[岩手県・南昌病院]	大地震後、ライフラインの寸断によりまして、物資の供給が思うに任せない状況となり、食品、医薬品、紙おむつなどその調達に苦心しておりましたところ、貴協会をとおして全国の会員病院等からたくさんの支援物資をいただきました。貴重な物資を頂戴しましたこと厚く御礼申し上げます。
[宮城県・石巻港湾病院]	慢性期医療に携わる会員からの支援物資ということで、さすがに必要なもの、求めていたものが詰められていて本当に助かりました。
[宮城県・齋藤病院]	これほど迅速に対応していただけたとは感無量です。逆境にめげず、全職員一丸となって地域医療に貢献できるよう頑張っています。
[宮城県・貝山中央病院]	介護用品、薬剤(補液類)、経管栄養物等、在庫が少なくなり、納品も不十分となっていた時で大変有難い思いでした。
[宮城県・守病院]	被災者避難所でもインフルエンザが発生いたしましたが、積極的に対処できました。毛布、その他の衣類は老健施設から大変喜ばれました。
[宮城県・石橋病院]	心のこもった支援物資をいただき、行動の素早さに感激と感謝を申し上げます。たくさんの支援物資を患者様のために有効に使わせていただきます。この災害を職員一同とともに乗り越えてまいります。
[宮城県・西仙台病院]	物(医療物資や日用品等)が無い、職員が出勤できない、そしてライフラインがすべて断絶された状況で職員は皆力を合わせ、患者様の安全を最優先に努めてまいりました。暖かい応援のお気持ちを支えに職員一同、完全復旧に向けさらに努力してまいります。
[福島県・福島寿光会病院]	協会の災害発生初期からの迅速なご判断とご尽力により、災害対策本部を早期に設置され活動を開始されましたこと、被災者の一人として感謝の言葉もございません。現在も津波被災地や原発地域からの避難者(特に透析患者)の受け入れが続いております。ご支援いただいた一部の物資については、避難所への医療巡回に際し活用させていただいております。このような混乱した時期に、被災地域の維持にいち早く行動を起こされた日本慢性期医療協会の見識と行動力は高く評価されるものと確信いたしております。
[福島県・穴澤病院]	医療材料・薬品等の品不足には、大変苦勞しておりました。思いがけない支援物資を頂戴し感謝申し上げますとともに、今後、協会員として責務を果たしていく所存でございます。
[福島県・こうじま慈愛病院]	物資提供の対応の早さに驚きと敬意を表したいと思います。今後も職員一丸となり業務に励む所存ですので、ご協力のほどよろしく願いいたします。

～被災地の会員施設からの声(一部抜粋)～

[福島県・佐原病院]	県内の南相馬市の病院でも患者さんの退去を余儀なくされ、当病院にSOSが寄せられ、いち早く22名の患者さんを受け入れました。支援物資を有効に活用いたします。
[福島県・いわき湯本病院]	物流の供給が遮断されているため、職員一同何とか頑張っ医療活動を続けております状況でのご支援、大変勇気づけられました。多大なる迅速なご協力に厚く御礼申し上げます。
[青森県・梅村病院]	医療介護用品仕入れの遅配等により大変苦労しているところでしたので、早速患者様へ利用させていただきました。
[茨城県・志村大宮病院]	物資が高速道路の通行止めやガソリン不足、さらには放射能の関係で不足が続いていました。貴重な物資を有効に使わせていただきます。
[茨城県・小川南病院]	停電、断水とライフラインが数日断たれ、大変な難儀をいたしました。このような状態で支援物資を送っていただきまして、本当にありがたく感謝しており、さっそく使わせていただきました。患者様の安全安心の医療を一番に考え、職員一丸となって努力してまいります。
[栃木県・比企病院]	リネン類、日用品等の物資は入りにくくなっております。貴会のタイムリーな取り組みに感謝申し上げます。



被災地の状況



被災地の状況



被災地の状況

